

東京iCDC チーム会議開催報告 【疫学・公衆衛生チーム】

○ 開催日時：令和5年6月8日（木） 18：30～19：30（WEB開催）

○ 参加者：賀来 先生、西田 先生、中島 先生、谷口 先生、鈴木基 先生

1 これまでの活動の振り返り

- 東京都の「時間別主要繁華街滞留人口の推移」を分析し、夜間滞留人口の推移から、その後の**新型コロナの感染状況の正確な予測を可能とした**。
- 一方で、新型コロナが感染症法上の5類に移行し、定点把握となったことにより、陽性者数が把握できず従来のような予測は難しくなった。ただし、受療行動の変化により「陽性者数」が実態から乖離している可能性があり、「陽性者」を把握・推定する意義は再検討が必要

2 今後の活動について

- **5類移行後の、新型コロナの感染状況のモニタリング方法について検討**。
- 新型コロナの定点把握は、流行状況やトレンドを把握することが目的。
- **最も重要なのは、医療逼迫を防ぐこと**であり、入院患者数の推移や医療提供の状況、救急搬送困難事例のモニタリングは重要。
- **定点把握等で感染状況のトレンドを見つつ、入院患者数等の複数の指標を活用し、感染状況及び医療への負荷をモニタリングしていくべきである**。
- 都民とのコミュニケーションツールとして、こういった目的で、こういった指標を活用するのが良いか検討したほうが良い。

東京iCDC チーム会議開催報告 【感染症診療チーム】

○ 開催日時：令和5年6月8日（木） 14：15～15：00（WEB開催）

○ 参加者：大曲 先生、四柳 先生、石田 先生

○ オブザーバー：賀来 先生

1 これまでの活動の振り返り

【新型コロナのレジストリ研究の状況】

- 東京都と共同で収集した2021年7月以降の都内入院症例は、3,000名以上。高齢者の動向は類型変更後（今年度）もデータを継続して収集し、把握する必要がある。
- 都と連携して実施中の研究は、記述的な特徴のまとめ、ワクチン及び変異株による重症化、予後の際の検討を行っている。
- 高齢者施設から入院した症例の予後と要因の検討も実施し、チーム会議で報告する。

2 今後の活動について

- 類型変更後、介護施設や臨床の**現場の状況が見えにくくなっている**。どういう患者が入院されて、どういう治療を受けられるかは、医療に直接関わってくるところであり、**類型変更後も把握していく必要がある**。
- 今後新興感染症に対応しなければならないが、**呼吸器感染症は重要なテーマ**であり、呼吸器で伝播していくような影響が大きい感染症について、しっかりフォローすべきである。
- 医療現場では**看護師が不足**しており、重症度の高い患者を診る現場でも問題が生じている。**診療を支える医療体制ができていないか**、都の方で意識して把握する必要がある。

東京iCDC チーム会議開催報告 【検査診断チーム】

○ 開催日時：令和5年6月9日（金） 12:00～13:00（WEB開催）

○ 参加者：石井 先生、三鴨 先生、宮地 先生

1 これまでの活動の振り返り

- 実施された新型コロナウイルス検査機器について、以下3点の確認・検証が必要
 - ① データの収集方法
 - ② 精度・陽性率の信頼性
 - ③ モニタリング検査、無料検査は感染制御への程度寄与したか
- 東京2020大会で1日3万件の検査ができたことは特筆すべきこと

2 今後の活動について

- 正しい検査実施、施設内感染対策は平時からの備えが必要
- インフルエンザ、RSウイルス、はしか、エムポックス、梅毒と様々な感染症に関する検査の精度管理を含め、検査能力の正確性向上が課題

3 その他

- 感染傾向を把握するため、下水処理のデータ公表を要望する。

東京iCDC チーム会議開催報告【リスクコミュニケーションチーム】

○ 開催日時：令和5年6月9日（金） 13:00～14:00（WEB開催）

○ 参加者：奈良 先生、小阪 先生、田中 先生

○ オブザーバー：賀来 先生

1 これまでの活動の振り返り

- リスコミチームでは、都民意識調査を9回行ったが、これはデータを取って終わりではなく、それを都の政策に生かす狙いであった。**都が政策に活かそうとしたことは貴重なこと**なのでアピールすべき。
- 他県でも振り返りをやっているが、**リスコミの形はあまり出てきていない**。東京都の取り組みが際立っている。

2 今後の活動について

- 行政や他チームが発信したいことについて、これまでリスコミチームが情報発信の観点から協力してきたが、これは今後も続けていく必要。
- リスコミチームで1万人アンケート調査やグループインタビューを実施し、政策形成に繋げることも引き続き行う。
- 当事者をいかに巻き込んでリスコミをやっていくかが課題。
- 何か言えば何らかのリアクション、フィードバックがあるだろうというある種の緊張関係、**行政と市民の間で、聞いた結果をレスポンスするという段階**まで行けば、東京都はリスコミで先進的な立場になる。
- **平常時の感染症リテラシー**を上げることが必要。都民に平時から感染症はこういう時にこういうものを気を付けるという、**平時からの教育啓発**をどうするか考えないといけない

東京iCDC チーム会議開催報告 【感染制御チーム】

○ 開催日時：令和5年6月9日（金） 18:00～19:00（WEB開催）

○ 参加者：松本 先生、金光 先生、具 先生、國島 先生、菅原 先生

1 これまでの活動の振り返り

【全体】

- 東京iCDC専門家ボードは、規模や内容の充実度の点で、他の自治体の取り組みと比べてはるかに優れている。
- 新たな感染症の発生の際に**どれだけ動けるか**が重要であり、今回の経験を次回に生かすためにも、これまでの取組を**記録としてきちんと残していくことが重要**
- 東京iCDCにおいて、感染対策支援チームなど実際に保健所などとも連携し、介護施設や医療機関の支援も行っている。そうした活動を伝えることで、東京iCDCが**専門家の助言だけでなく、現場対応を含めた活動を行っていること**のPRになる。

【啓発物作成等これまでの取り組み】

- 自宅療養ハンドブックなど様々な場面で都・チームが作成したものを都民が参考に見ているのを見ると、**正しい情報発信を行う重要性**が分かる
- 作成した啓発物について、**改訂して再活用すること**も有効

東京iCDC チーム会議開催報告 【感染制御チーム】

○ 開催日時：令和5年6月9日（金） 18:00～19:00（WEB開催）

○ 参加者：松本 先生、金光 先生、具 先生、國島 先生、菅原 先生

2 今後の活動について

【全体】

- 今後も未知の感染症は必ずやってくるので、今まで得られた知見を生かして次に対応していく必要がある。
- 社会の感染症対策に対する社会の要求は以前よりも高くなっており、麻しん・梅毒など新たに流行している他の感染症にも対応していく必要がある。
- より多くの医療機関、施設で治療と感染対策が求められ、常に最悪を想定しておく必要
- 組織が大きくなるとほかのチームとの連携も難しくなる。重複するところもあると思うので、賀来所長や事務局がコーディネートして**役割分担や活動内容の指示**をもらえると活動がしやすい。

【医療機関・施設】

- 高齢者施設で働く人の中で、感染制御を担える人材を育成することが重要
- 医療機関の感染対策について、外来は対策を緩和しており、入院患者対応も常にフルPPEを着用するのは無理なので、**感染対策のブラッシュアップ**は必要
- 感染制御チームとしてこれだけスキルを持った先生方がいるので、保健所や実際に現場で支援にあたる方のレベルアップに積極的に関わることができればいいのではないか。

東京iCDC チーム会議開催報告 【感染制御チーム】

○ 開催日時：令和5年6月9日（金） 18:00～19:00（WEB開催）

○ 参加者：松本 先生、金光 先生、具 先生、國島 先生、菅原 先生

2 今後の活動について

【情報発信、啓発資材等】

- 定点観測になり、感染者数がどうなっているか都民に分かりにくい。都民がどのように情報を得て行動を変化させているのか、そのきっかけをどうするかが課題
- これから感染者数が増えれば、その状況に応じた新たな対策を講じる必要がある。コロナの動向を分かりやすく都民に発信し注意喚起を促すとともに、都民が取るべき行動に関しての発信がしばらく必要
- これまでのノウハウを都庁の職員も持っているはずで、それを生かす形で、**様々な感染症に臨機応変に啓発資材を出していく、情報発信を行う**ような活動が望ましい。

東京iCDC チーム会議開催報告 【微生物解析チーム】

○ 開催日時：令和5年6月8日（木） 15：30～16：30（WEB開催）

○ 参加者：賀来 先生、長谷川 先生、森田 先生、小原 先生、松山 先生、片山 先生、吉村 先生

1 これまでの活動の振り返り

- **新型コロナの抗体保有調査を実施**し、無症状の抗体陽性者の推定や、ワクチン接種による抗体価の推移を明らかにした。新型コロナに対する免疫の調査は今後も重要である。
- **ゲノム解析等により、新型コロナの変異株の監視**を行ってきた。東京都のサーベイランスは日本全体にとっても重要。

2 今後の活動について

- 引き続き、「**免疫**」と「**ウイルス**」についての検討を実施（新型コロナへの**免疫に関する調査**や、**ゲノム解析による変異株の監視**等）。
- 海外でも、コロナ禍前の生活に戻ることで、デング熱などの感染症が増えている。インバウンドが増える中で、都内にも流入することが予想される。**新型コロナウイルスに限らず様々な感染症について、情報を共有していくことや、発信していくことが重要。**
- 臨床現場と基礎研究の連携といった、**チーム間での連携も重要。**

東京iCDC チーム会議開催報告 【研究開発チーム】

○ 開催日時：令和5年6月5日（月） 17:00～18:00（WEB開催）

○ 参加者：賀来 先生、大毛 先生、掛屋 先生、井上 先生、鈴木忠樹 先生

1 これまでの活動の振り返り

- 行政・研究者・医療機関等で情報が共有され、必要な情報が必要な時にしっかりと伝わる東京iCDCの仕組みは素晴らしい。
- 健康安全研究センターや医学総合研究所の良い取組を振り返り、次の感染症に向けて何ができるのかを考えるようなシンポジウム・研究会があった方がよい。
- 平時からマニュアル・対策を作っておくとともに、定期的に情報発信できる体制になるとよい。

2 今後の活動について

- 技術提案だけではなく、ネットワークの提案や海外の取組の紹介など、都にとって有用だということをそれぞれのメンバーが自由な発想・視点で提案することとする。
- 他の専門家ボードメンバーにも情報提供するとともに、健康安全研究センターや医学総合研究所ともタイアップできるような取組があれば良いのではないかな。
- この3年間で蓄積した知見を活かすことで、都に対して役立つ提案ができるのではないかな。

3 その他

- 東京iCDCのような体制・人的ネットワークを維持していくことは非常に重要

東京iCDC チーム会議開催報告 【人材育成チーム】

○ 開催日時：令和5年6月8日（木） 17:00～18:00（WEB開催）

○ 参加者：加來 先生、中村 先生、渋谷 先生、高橋 先生

1 これまでの活動の振り返り

- 医師・看護師等向けの研修動画配信や、感染症人材の採用に係る制度構築を実施
- これまでは主に医療関係者を対象に研修等を実施したが、**学校や職場など都民一人ひとりが感染症への対応力を向上させていくことが望ましい。**

2 今後の活動について

- 座長の加來先生は、自身が青森県において実施した教育プログラム（医師や看護師、保健師、事務職など多職種が参加）を参考に、**東京都においても展開すること**を提案。研修を通じて、多様な職種によるネットワークを構築（東京都は規模が大きいことから、手法を検討）。
- **学校や職場など日常における感染症の対応力向上を図るため**、例えば、企業や教職員などを対象にしたプログラムなども提供することも一案（年代や職種等、ターゲットにする層を検討）

3 その他

- 人材育成チームは、**平時においてこそ存在を発揮するチームである**ことから、今後はスパンを空けずに、継続的にチーム会議を開催していくことが必要

東京iCDC チーム会議開催報告 【情報マネジメントチーム】

○ 開催日時：令和5年6月7日（水） 16:00～17:00（WEB開催）

○ 参加者：神垣 先生、高橋 先生、矢澤 先生、吉田 先生

1 これまでの活動の振り返り

- 効率的なデータ収集と対応に資するデータにするための戦略や結果のフィードバック方法を議論できたことは非常に有意義
- 新型コロナウイルスへの対応の中での**情報管理の課題と将来に対する教訓を得ることが大事**
- 集めた評価項目の目的や効果を精査し、次に別の感染症が起きた時に**どのような項目を集めるかを検討**しなければならない
- データを決めすぎるのではなく、最低限必要なデータ決めておき、**その時に応じてアジャスト、カスタマイズできる仕組み**が必要

2 今後の活動について

- 引き続き医療機関等へのヒアリングを行い、現場の振り返りや情報整理を行う。
- 他のチームとの横串をさすため、「疫学・公衆衛生チーム」や「検査・診断チーム」等と**チームをまたいだ情報共有や議論**する場を開きたい
- 連結できるデータの取得の仕組みの構築により**データ取得の迅速化**とともに、**フィードバックのあり方**が検討できると良い
- データのリンクというデータマネジメントだけではなく、使う人たちの有機的なつながりも検討できるかと思う。
- 国とも組織的に新NESIDについての意見交換ができると良い